

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は東日本大震災の影響により、弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は東日本大震災の影響により、弱含んでおり、厳しい状況にある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、\_は下方に変更)

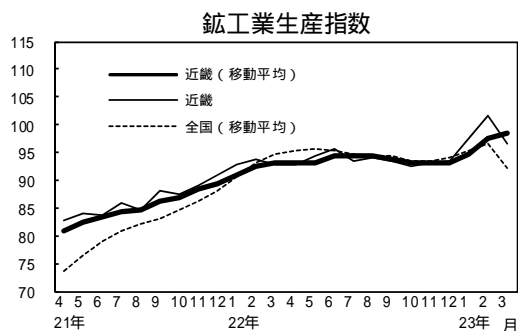
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年2月)	今回(平成23年5月)	
景況判断	足踏み状態	東日本大震災の影響により、弱含み	
鉱工業生産	おおむね横ばい	東日本大震災の影響により、減少	
住宅建設	増加	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	東日本大震災の影響により、弱含んでおり、厳しい状況	

## 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響により、減少している。

一般機械は、土木建設機械等が海外向けで好調だったが、一部で東日本大震災により部品調達に影響が出ており、足元では減少がみられている。化学、食料品・たばこも、一部で原料調達に影響が出ている。電気機械は、海外向けノートパソコンや携帯電話向けで伸びており、増加している。鉄鋼は、海外向けを中心に堅調に推移している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

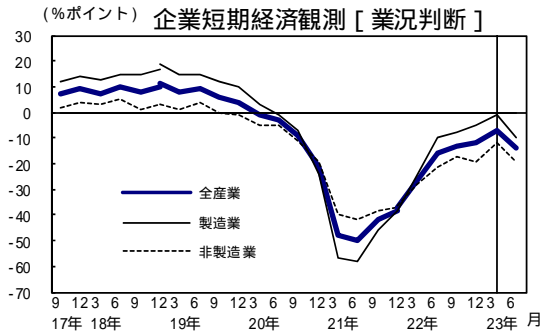
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	17.0	5.9	2.8	4.1	7.8
化学	14.5	2.0	8.5	7.3	1.4
食料品・たばこ	9.1	5.4	4.3	7.4	3.3
電気機械	8.5	0.8	4.3	2.0	26.8
鉄鋼	7.5	0.4	9.6	11.8	1.9
鉱工業	100.0	0.7	6.0	5.0	7.2

(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

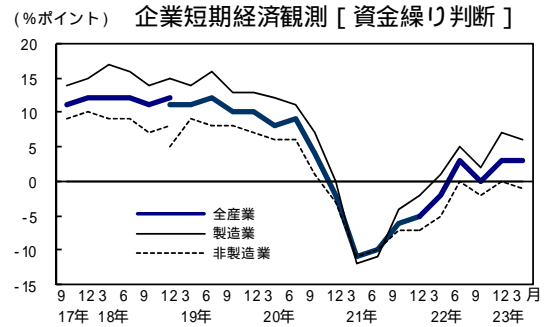
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

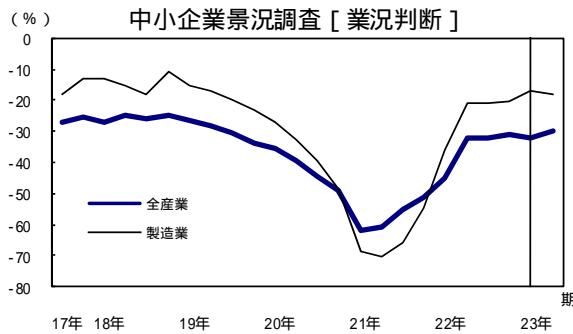
(2) 業況判断、資金繰り判断  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

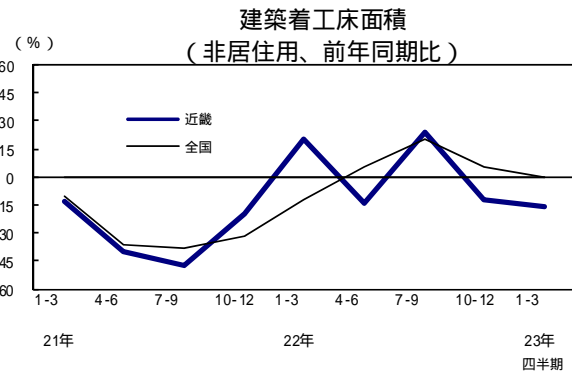
景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]  
「東日本大震災の影響で広告市況はかなり悪化しており、年度初めも厳しい状況となっている(広告代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績込み	23年度見画
全産業	7.5( 0.1)	6.4
製造業	10.9( 1.2)	4.6
非製造業	5.0( 1.1)	7.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

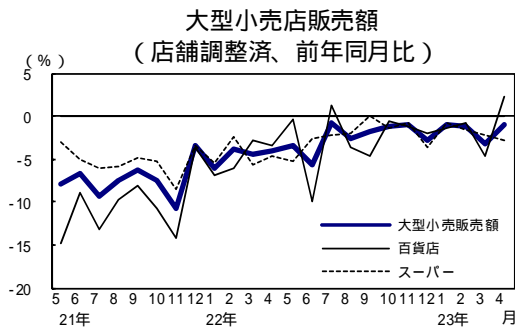
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、気温の低下が後押しとなり、クリアランスセールで防寒アイテムが好調だったが、前年に比べ土曜日が1日少なかったことなどにより前年を下回った。2月は、冬物衣料や、バレンタイン関連が好調だったが、家電が不調だったため前年を下回った。3月は、気温が低かったことや震災による消費者マインドの低下により、前年を下回った。日本百貨店協会によると、4月の売上高は、大阪市、神戸市、京都市で、それぞれ前年同月比4.7%増、1.2%増、1.8%減となっており、3都市を除く近畿地区では2.4%増となっている。スーパーは、気温の低下により、1、2月は冬物衣料が好調だったものの、3月は春物衣料が不調だった。震災直後は水やカップラーメン、電池などの特需が出たが、原発事故により、生野菜全体の買い控え心理が働き、葉物類、果菜類の落ち込が顕著に出たため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「東日本大震災の影響で、店に新車がない状態となっている。納期も分からないため、販売ができない(乗用車販売店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

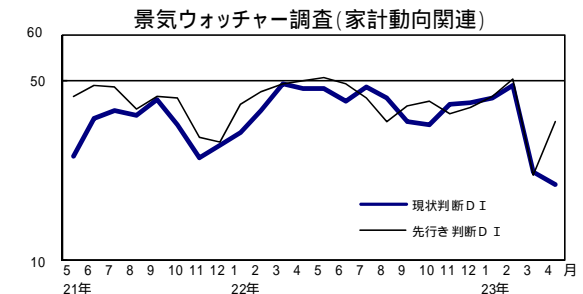
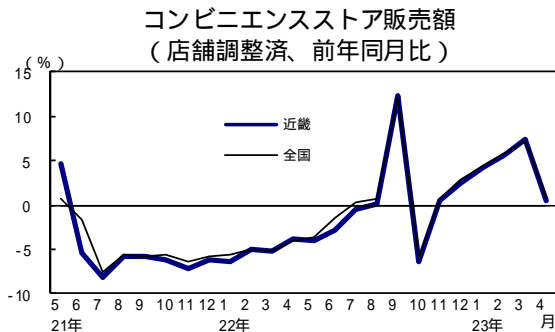


	(前年同期比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	4.4	1.7	1.7	1.8
百貨店	4.7	2.0	1.3	2.3
スーパー	4.2	1.5	2.0	1.4
乗用車	20.9	13.8	27.9	24.3
景気ウォッチャー	47.3	45.1	43.4	41.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

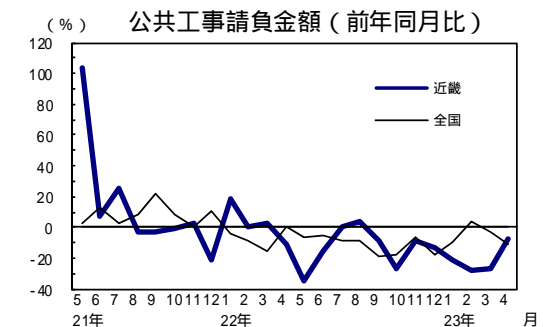
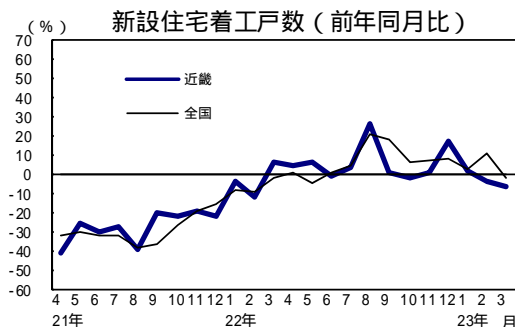
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、給与などが下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

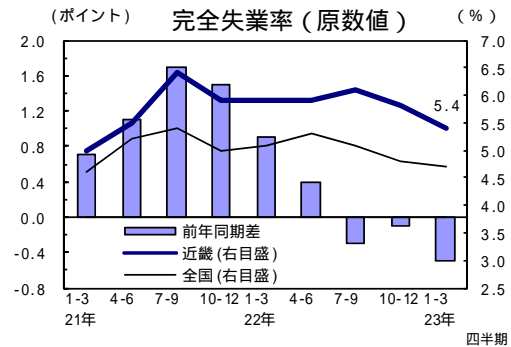
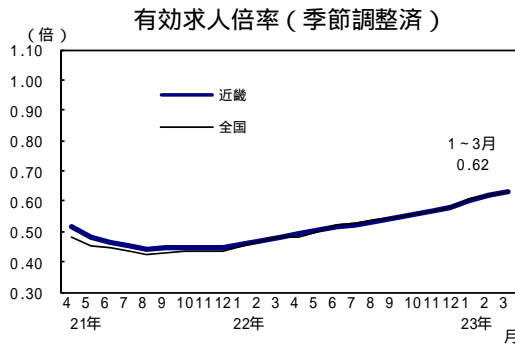


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は東日本大震災の影響により、弱含んでおり、厳しい状況にある。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。3月の新規求人数は減少している。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

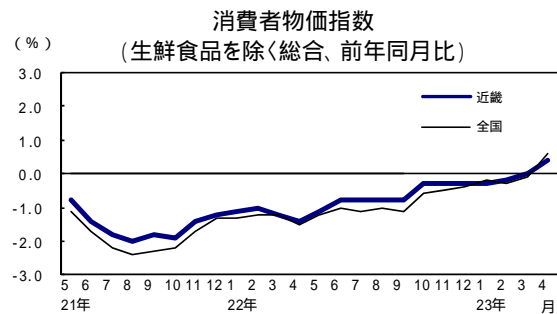
「震災以降の採用環境は不透明感がかなり強まっており、採用開始時期の変更や、先行き不安による採用手控え、選考期間の長期化が進んでいる（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	936	861	964	857	297
（前年比）	15.2	18.8	2.4	9.3	10.8
負債総額	1,665	1,373	4,179	1,445	507
（前年比）	29.3	16.6	5.4	28.5	12.8



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・歓送迎会で人の動きが活発になる時期であるが、東日本大震災の影響で様々な式典が中止や延期になり、街のにぎわいもなくなっている（タクシー会社）

<先行き>

・5月には、新規出店や改装オープンなどの動きがほぼ出そうため、当店の売上が伸びるかは別として、客の購買意欲は高まる（百貨店）

